

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170600361		
法人名	有限会社 夢家族		
事業所名	グループホーム夢家族・柳津		
所在地	岐阜県岐阜市柳津町丸野5丁目47番地		
自己評価作成日	平成29年9月20日	評価結果市町村受理日	平成29年12月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/idx.php?act=on_kouhyou_detail_2017_022_kani_tru&amp;sl_gvosyoCd=2170600361-00&amp;PfCd=21&amp;Ver:si_onCd=022">http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/idx.php?act=on_kouhyou_detail_2017_022_kani_tru&amp;sl_gvosyoCd=2170600361-00&amp;PfCd=21&amp;Ver:si_onCd=022</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成29年11月1日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム夢家族(柳津)、主任をはじめ、職員一丸となって利用者さんと同じ目線、耳元で声掛けをしている。車いすの利用者さんが多くなり、介護度も高くなり見守りをしている。季節の食材を使い、特に野菜は「道の駅」に行き、とれたての野菜を使っている。目で見て、食べて頂き五感も感じて頂ける様に心がけている。毎週土日には、カラオケをおこない利用者さんに楽しんでいただいている。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所理念を「安心感」と掲げ、全職員で優しい声かけと笑顔での支援に心がけている。利用者との関係が維持できるように、言葉遣いにも配慮し電話対応や来客者への接遇にも心がけている。利用者が地域で安心して生活できるように、第三者委員を設置し住民からの苦情には即対応し近隣との関係作りにも努めている。重度者が多くなっているが、テラスで食事やおやつを食べて外気に触れる機会をもち、カラオケで声を出したり笑顔を引き出す工夫をしている。職員同士も笑顔で仕事ができるように、忘年会や歓迎会を行い、ミーティングで全職員が意見を言い、個々に抱え込まないような話し合いを重ね、質の向上に向けて努力している事業所である。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	共に学び直していきます	会社理念を基にした事業所理念と介護方針を居間に掲示し、いつでも確認できるようにしている。ミーティングでの話し合いや朝礼で声かけ合い、実践している。利用者に合わせて優しい声かけと笑顔で接するケアをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今までと同じように、敬老会・消防訓練はしているが、今まで以上にお付き合いできるようにしている	自治会に加入し住民と一緒に認知症カフェに参加している。散歩時や近隣の喫茶店で住民と触れあい、利用者が一人で外出時には連絡が入る関係ができています。アパートが隣接しており苦情等には、即対応している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今までと同じように地域の方と接していきたいが、それ以上にお役にたてるようにしていきたい		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、老人会長・民生委員等の方々に来ていただき、話し合いご意見を聞いて取り組みを活かしている	家族に通信で参加を呼びかけ、欠席者には事後報告している。会議で事業所の現況説明・ヒヤリハットを報告している。ベランダ活用の意見をミーティングで検討し、屋外での飲食やレクリエーション等を取り入れた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域の方に来ていただき、万が一の時に協力し合えるよう取り組んでいる	書類提出時に、市に出向き担当者に実情を伝えている。制度変更や実地指導等については、電話やメールで相談する場合もある。運営推進会議や市主催の会議で、情報交換し助言も得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体機能の低下、認知症の進行により御家族の了解のもと、拘束はあるが取り外しの取り組みをしている	全職員でミーティングにて、身体拘束による弊害や言葉遣いについても話し合っている。ミトンの装着や車イスのテーブルについても、医師や看護師の助言を下に家族の了解を得て、時間と状況に合わせて取り外しの努力はしているが、書類が不備である。	利用者の身体状況や職員の勤務体制等からではあるが、解除できる方策の検討が望まれる。説明書や必要書類の様式はあるが、具体的な記録の整備が望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングの時の話し合いはもちろん、日頃話し合っている		

グループホーム 夢家族・柳津

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングで話し合っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、御家族に不安のないように十分な説明をしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で意見交換している	年1回は家族満足度アンケートを行ない、毎月の「生活便り」に近況を手書きで記入している。家族の意見や要望を聞く為の「ご案内」を添付している。面会時には意見や要望を聞き、出た意見は取り入れている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングはもちろん、日頃意見を聞いている 年一回の個人面談有り	日頃の業務内で管理者や主任が意見を聞き、ミーティングで出た意見の検討している。予算が伴う場合は会社に上申している。隔月は2時間ミーティングをし、テラスでの行事や食事内容について取り入れた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与規定あり。処遇改善の手当あり。年一回の個人面談有り。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアマネからの研修を必要な時々行い、会社からも研修のあっせんをしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修時の交流、又は事業所間での交流もある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時にホームに来ていただく。関係者との事前のカンファレンスを行っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談を複数回行い、要望を聞き入所後も行っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期面談時に行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活援助を主に支援させて頂いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の生活便りや電話にて現状やご本人の意見を伝えている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族の関係は特に大切にしている	馴染みの美容室・買い物・喫茶店等には家族に協力を依頼している。家族の声が聞きたい人には、電話をかけたたり、面会に来てもらったりしている。通院時に馴染みの道路を通り、自宅に立ち寄る場合もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、話し合える関係を作っている		

グループホーム 夢家族・柳津

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方に面談に行っている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	対面で話せるときに要望を聞くようにしている	優しい声かけと笑顔で利用者と目線を合わせて、思いや意向を聞き取るように努めている。困難な人には、顔の表情や仕草をよく見て推測している。その人に合わせて、指さしや頷きで選択ができるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の情報提供をもとに把握している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ミーティングを主に話し合っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネが主となり、ご本人・職員等から聞きとり作成している	利用者や家族の意見を事前に聞き、医療職の助言と職員の意見も入れて介護計画を作成している。モニタリング実践記録の記載内容をミーティングで話し合い、必要時は見直しし、朝・夕礼で伝達している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	些細な事でも個人記録に残し、共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り要望は聞き、出来る事は取り組もうとしている		

グループホーム 夢家族・柳津

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	オレンジカフェへの参加を心がけている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御家族・ご本人の意見を聞くようにしている	入居時に連携する協力医に変更する利用者が多い。家族がかかりつけ医に付き添い受診する時は、状況を伝え受診後に報告を受けている。専門医の受診は職員が付き添い、家族に状況報告している。訪問歯科・看護の利用ができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	書類や電話でこまめな情報交換・要望・対応をしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	カンファレンスを行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	書面により希望を聞き話し合っている	入居時に事業所の方針を伝え説明し、状態に合わせて、その都度、家族と話し合い同意書で確認している。重度化し看取りを希望する場合は、医療職と24時間連携し、申し送り等で情報を共有しながら対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習をスタッフが受けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回訓練している	初期消火・通報・避難訓練を実施時に、時間計測し消防署の助言を得ている。水・食料品等を備蓄している。車イス利用者もスロープを使用し避難訓練をしているが、夜間想定がなく住民の協力も得られていない。	単体の事業所で、夜間は特に職員体制が手薄になる為、落ち着いて対処できる訓練と住民の協力への働きかけが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に最近では心がけて、ミーティング等で話し合っている	利用者との関係を保つように言葉遣いに注意し、呼び名も「〇〇さん」としている。排泄時のドア閉め・入浴時のカーテン閉めや着替え時にバスタオルをかける配慮をしている。電話対応や来客者への接遇も気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を聞いた場合、出来る事はその場で職員が行い情報は共有するようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調をみながら希望に添えるようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、起床時に気を配っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日はご本人の希望にそったメニューにしている	利用者の希望を聞き旬の食材を使う献立にしている。食器洗いや後片付けができる人は、一緒に行っている。食事を説明しながら会話が弾むように楽しい時間になっている。テラスでのおやつ作りや行事食も取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特に夏の水分補給に気を使っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医師に月一回診て頂いている		

グループホーム 夢家族・柳津

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ポーターのみの方が、トイレへ手引きで行かれている	排泄記録を参考に、その人に合わせてトイレ誘導しオムツにしない方針で対応している。立位がとれる人はトイレ排泄にし、ちり紙を使用する人にはポータブルトイレの使用もし、自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動を心がけている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望があれば、時間外にも入れる。ほぼ全員入浴される	利用者の好みで湯温調整し、シャンプーや入浴剤を使用している。身体状況で清拭や足浴も行っている。嫌がる人には職員の交代や声かけの工夫をしている。浴室では音楽を流し1対1で、ゆっくり話ができるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の健康状態に合わせている。なるべくエアコンを使って換気している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が変わる時には、話し合っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	土日はカラオケをしてい、利用者様によっては個別で外出している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	話し合い、都度行っている	その日の外出希望を言える人は少なくなっているが、車イスの人も外気浴をしたり散歩に行ったりしている。家族の協力で美容院や喫茶店に行く人もいる。全員一緒の外出は難しいが、買い物や喫茶店に職員が付き添い、浴衣を着ての花火見物は楽しい思い出になっている。	



グループホーム 夢家族・柳津

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	なるべく置かないようにしているが、持ちたい人は持てるようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日記が書ける人へ支援はしていた		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて飾っていた	居間兼食堂で利用者は自分のイスに腰掛け、会話しながら、お茶を飲んだりTVを見たり洗濯物を畳んだりしている。室温や換気に注意し、冬季は加湿器や濡れタオル等で乾燥に気を配っている。居住環境の改善に向けて、居間・トイレ・浴室の改修計画がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	場所が狭い為、一人になるのは個室になるが気の合う人同士個室で話されている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好みに合うものを飾っている	使い慣れたタンス・衣装ケース・時計等を置き、家族や趣味の写真・カレンダー・縫いぐるみ等を飾っている。自分の作品やお祝い色紙等をかけ、自分らしい居室にしている。障子や襖も利用者の希望で開閉している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は分かりやすく張り紙をしている		